



- 教科や領域等の学習活動の中で、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的、実践的な学習を目指しましょう。

- ◆ 「協力的な学習」、「参加的な学習」、「体験的な学習」を中核に置きましょう。

## 協力的な学習

児童生徒が自分自身と学級集団の全員にとって有益となるような結果を求めて、協力しつつ共同で進める学習です。

## 参加的な学習

学習の課題の発見や学習の内容の選択等も含め、児童生徒が主体的に参加することを基本的要素とする学習です。

## 体験的な学習

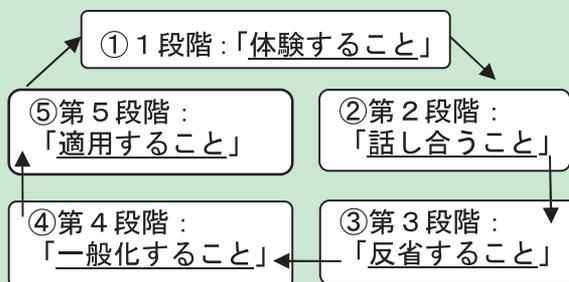
具体的な活動や体験を通して、問題を発見したり、その解決方法を探求したりするなど、生活上必要な習慣や技能を身につける学習です。

- ◆ 「体験的な学習」に関して

○体験的な学習は、「体験すること」自体が目的ではなく、いくつかの段階からなる学習サイクルの中に位置づくものです。

○個々の学習者の体験をはじめとして、他の学習者との協同作業としての「話し合い」、「反省」、「現実生活と関連させた思考」の段階を経て、「自己の行動や態度への適用」へと進んでいくと考えられます。

参考：「体験的な学習」に関する学習サイクル  
（〔第三次とりまとめ〕より）



## 参加体験型学習の進め方の例

- ① **アイスブレイキング**：ファシリテーターは、これから始まる参加体験型学習のねらいを説明したり、アイスブレイキングを行って、学習者の緊張をほぐし、主体的に参加できる雰囲気づくりをしたりします。
- ② **アクティビティ**：明確な目的意識のもとに考案された学習活動です。ロールプレイング、シミュレーション、ドラマなど、多種・多様な手法が用いられます。
- ③ **話し合い**：アクティビティでの気づきなどをグループで話し合います。互いの気づきや考えを表現し、共有しながら学習内容を深めます。
- ④ **発表**：グループごとに発表します。ファシリテーターはそれらを整理したり、発表内容に対する意見を求めたりします。
- ⑤ **振り返り**：分かったこと、理解が深まったこと、発見したことなどを発表し合うことを通し、学びを確認し合い、共有し合います。最後に、ファシリテーターは、特に大切にしたいことを説明したり、新しい課題を指摘したりします。



これからの人権教育は、教師のファシリテーター（学習促進者）としての役割が必要です

**ファシリテーター**：知識の一方的な伝達に止まらない、創造的・生産的な活動を保障する進行役。児童生徒一人一人が、それぞれ異なった豊かな経験・知識・技術・アイデア・関心・パワーを持っていると信じ、参加体験型学習等を通じて、児童生徒の持っている豊かなものを引き出そうとする。